

『名士が開いた三等郵便局—本庄仲町郵便局を事例に—』

中谷礼仁研究室 / 本庄煉瓦倉庫ゼミ / 宮原秀明

【序論】(第1章)

研究目的

本庄仲町郵便局をはじめとした「三等郵便局」がいかなるものか、逓信省に関する文献調査により解釈し、通信建築の中での設計の特異性を明らかにする。それを踏まえて、本庄仲町郵便局を事例とした文献・実測調査をもと地域の名士が開いた三等郵便局とは当時、町でどのような役割を担っていたかを明らかにすることを目的とする。



図1: 本庄仲町郵便局 (中山道側から臨む) 図2: 局舎の東側建物 (奥に見えるのが中山道)

研究方法

まず三等郵便局とはいかなるものかを逓信省に関する文献により明らかにする。その後、本庄仲町郵便局についての文献調査、ヒアリング調査、実測調査によって得られた情報をまとめ、考察する。ヒアリング調査は現本庄郵便局長の戸谷満氏、建築家の戸谷正夫氏と元本庄市立歴史民俗資料館館長の増田一裕氏に対して行った。

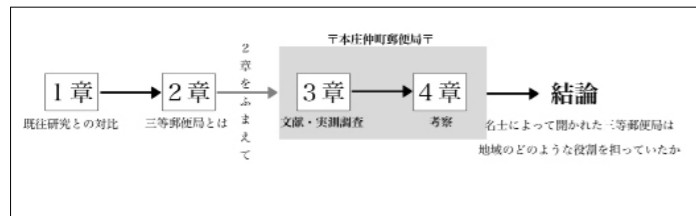


図3: 本論文の立ち位置

既往研究との関係

本論文では三等郵便局だけでなくその現称である「特定郵便局」の建築に関連した既往研究また、登録有形文化財に指定されている郵便局についての既往研究と比較した。

【本論】

第2章 近代「郵便局」制度の発祥

この章では、本庄仲町郵便局がどのように開設されたかを述べる前の準備として、そもそも三等郵便局がどのように開設されたかを説明した。現在「特定郵便局」に区分される本庄仲町郵便局であるが、特定郵便局の前身である「三等郵便局」、ひいてはそれを全国に設置した逓信省について略史を含め述べた。この章の構成は、大きく逓信省の発足から解体までを述べる節、そこからさらに絞って郵便局の展開方法について述べる節、郵便局の種類を細かく分け、本庄仲町郵便局を含む三等郵便局にまで焦点を絞る節をおいた。それらを踏まえて、三等郵便局の設計体制を、逓信省の設計にまつわる書籍を現代語に近い形に変換し、その考察を述べる。ここでは最後の三等郵便局の設計についてわかったことのみ記述する。

・三等郵便局の設計

通信建築の設計について記された書籍、張 管雄『第19巻 建築計画 7 第41編 逓信省の建築』東京 常磐書房 (1933) の中で以下の様に説明されている。

「三等郵便局舎の構造設備に関しては局舎構造設備規定といふものがある。一、二等郵便局の様にその局舎を本省の營繕課だとか逓信局の營繕係とかの専門家の手を経て設計するものに就ては特別の規定を必要としないが、三等郵便局舎の様なその然らざるものに付ては規定を設けて之を統一する様にしてある。」

つまりこの一文により少なくとも規定公布後の三等郵便局局舎の設計は逓信省直々の設計ではないことが明らかとなった。

第3章 文献・実測調査から判明した

本庄仲町郵便局の建築概要

本章では2章で述べた三等郵便局の事例として、埼玉県本庄市の本庄仲町郵便局を扱う。そしてたどってきた時代を「開局期」「明治期」「昭和期」「現在」に分け、時代ごとに本庄仲町郵便局がこれまで文献資料でどのように述べられてきたかをまとめた。ここでは、本論を進める上で重要な資料のみ記載する。

- ・元本庄歴史民俗資料館館長、増田一裕氏転写資料

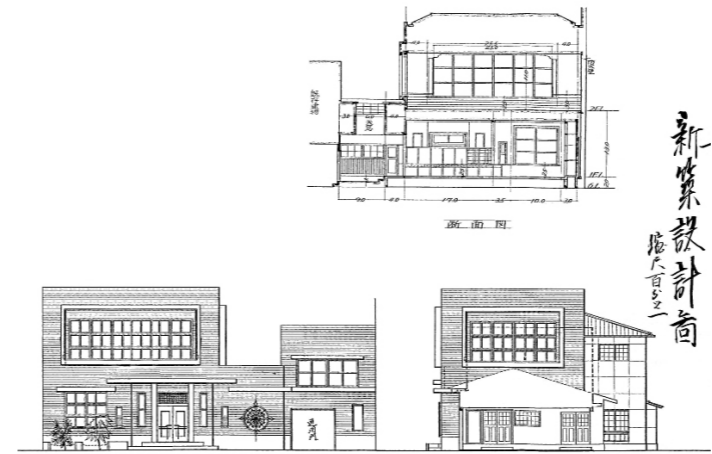


図4: 昭和期の本庄仲町郵便局の新築設計図

またこれらの文献調査に対し、本庄仲町郵便局東側の局舎並びに煉瓦壁について実測調査を行った。実測調査で得られた結果は裏側の図面を参照されたい。

第4章 本庄仲町郵便局東側局舎

の復元的考察

本章では3章で行った煉瓦壁、東側局舎に関する実測調査で得られた結果と、仲町郵便局に関する資料との比較を通し考察を行う。幾つか考えられる考察の中で、ここでは痕跡の理由が明快なもののみ、挙げる。

- ・局舎裏手から諸井家住宅へ至る庇の可能性

煉瓦壁の端と、敷地の反対側から伸びてきたコンクリート塀の間には隣の敷地の蔵が隣接している。またこの蔵は、諸井家住宅や本庄仲町郵便局がある敷地に接する面のみトタンで覆われている。



図5: トタンの蔵で終点を迎えるブロック塀

図6: トタンの蔵で終点を迎える煉瓦壁

現在の東側局舎の場所は、かつて糸繭商諸井商店があった。このトタンで覆われた蔵には、諸井商店の繭などの商品を直接出し入れしていたと考えられないだろうか。そこで浮かび上がるのが、「小口半分ほど出っ張った煉瓦の列」と「その上に並んだ金属の金具」である。(実測断面図参照) この列は東側局舎付近から伸び、諸井家住宅に増設された庇部分までで止まっている。



図7: 煉瓦壁に残る痕跡

東側局舎が諸井商店の遺構であるとするならば、この煉瓦の列は、諸井商店から隣の敷地の蔵までの道の、風雨を防ぐ庇を設置していた名残と考えられる。

- ・改修履歴から見る用途変化と地域の歴史の関係

図の断面図における「既存建物」の記載や、実測調査からも明らかであるとおり、昭和期の本庄仲町郵便局は新旧二つの建物をつなげて、表からは一つの建物であるかのようなファサードを持つ。つまり東側局舎と郵便業務を行う局舎は別々の建物であるが、古い建物と新しい建物をつなげ当時流行の最先端であるビルディング風の二棟の看板建築としてつくられたのである。これを諸井家が受け入れた背景は、この建物が本庄の近代化の先駆けとしてのシンボルとしての役割を担おうとしていたからではないだろうか。

結論

第2章にて述べた、逓信省に関する設計計画書から三等郵便局は逓信省の設計課ではなく、各地域に委託されたものだということが明らかになった。これは逓信省の建築の中でも得意なものであると言える。また、東側局舎に関する実測調査・文献調査によって「庇」の存在の可能性を述べる事ができた。そして本庄仲町郵便局は昭和初期の本庄の街のランドマークの役割を担う、近代化の象徴であったことが明らかとなった。本庄仲町郵便局局舎のファサードは当時の本庄市の流行を残す貴重な資料であった。震災によって壊れてしまったとしても、トタンで覆うのではなく当時の姿を復元するような修復をする道あったはずである。

目次構成

序論（第1章）

- 1-1. はじめに
- 1-2. 研究目的
- 1-3. 研究方法
- 1-4. 既往
 - 1-4-1. 登録有形文化財に関する既往研究
 - 1-4-2. 特定郵便局に関する既往研究
- 1-5. 既往研究に対する本論の位置付け

本論

第2章 近代「郵便局」制度の発祥

- 2-1. はじめに
- 2-2. 逓信省
 - 2-2-1. 逓信省の発足と解体
 - 2-2-2. 近代郵便の創業から郵便局展開の方法
 - 2-2-3. 等級制度によって分けられた三等郵便局
- 2-3. 三等郵便局の設計
- 2-4. 小結

第3章 文献・実測調査から判明した本庄仲町郵便局の建築概要

- 3-1. はじめに
- 3-2. 文献に現れる本庄仲町郵便局
 - 3-2-1. 所有者「諸井家」
 - 3-2-2. 開局
 - 3-2-3. 明治
 - 3-2-4. 昭和
 - 3-2-5. 現在
- 3-3. 実測調査によって新たに判明した事項
 - 3-3-1. 調査概要
 - 3-3-2. 現況及び仕様
 - 3-3-3. 各階平面
- 3-4. 小結

第4章 本庄仲町郵便局東側局舎の復元的考察

- 4-1. はじめに
- 4-2. 推測される東側局舎の改修履歴
 - 4-2-1. 登記簿・既存図面との比較
 - 4-2-2. 本庄市資料室所蔵の該当建物の写真との比較
 - 4-2-3. 局舎裏手から諸井家住宅へ至る庇の可能性
- 4-3. 改修履歴から見る用途変化と地域の歴史の関係
- 4-4. 小結

結論及び謝辞

結論、謝辞、出典

図版・出典

図1～3、5～9：筆者作成

図4：増田一裕転写資料

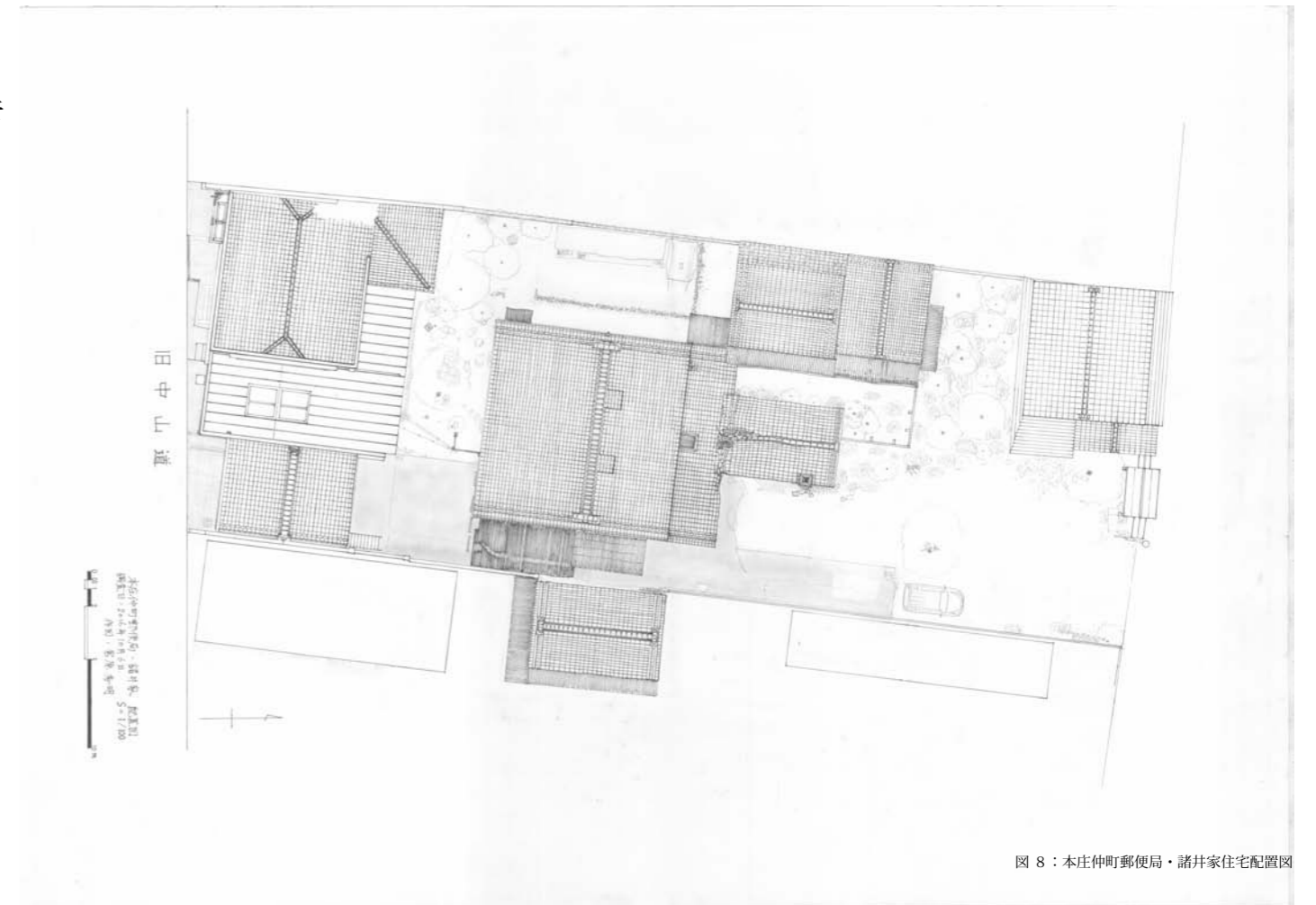


図8：本庄仲町郵便局・諸井家住宅配置図

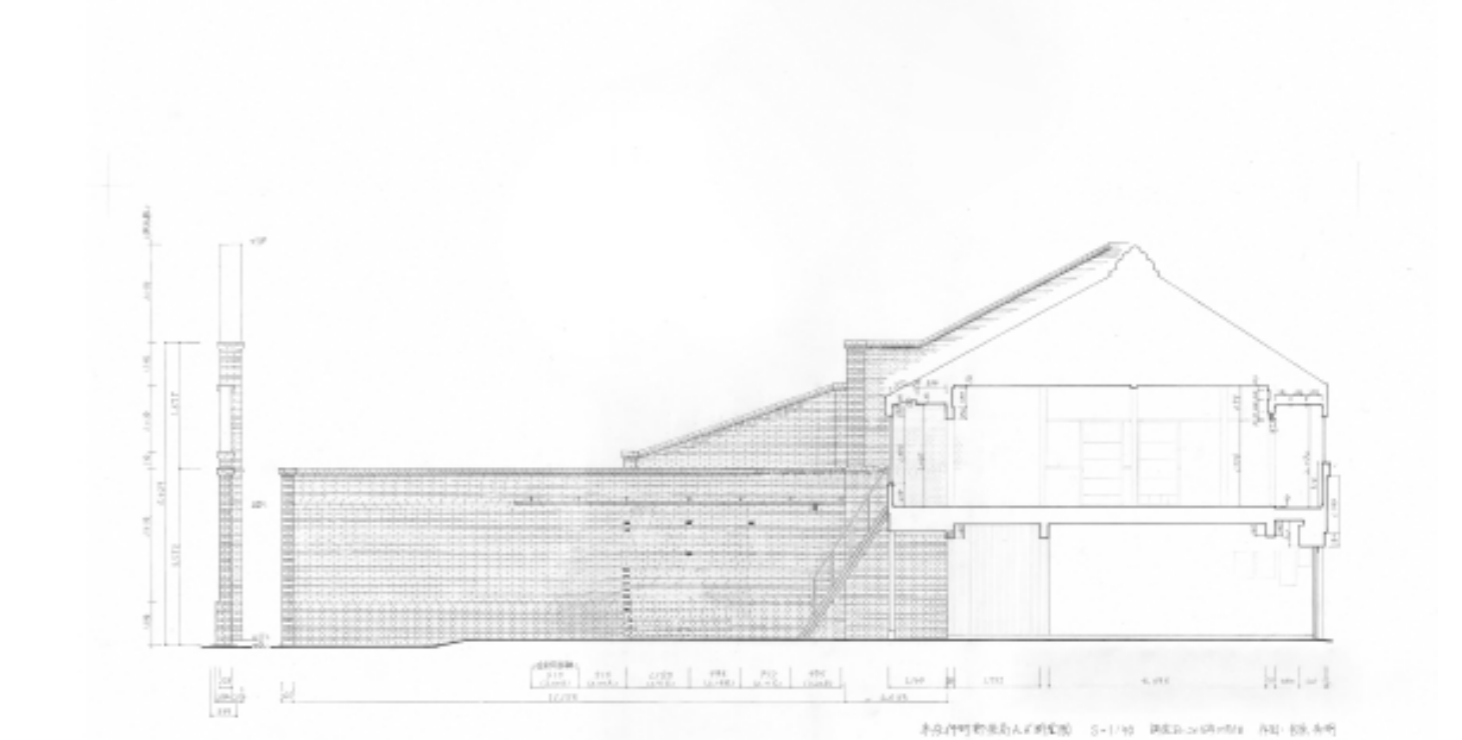


図9：東側局舎断面図